

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	キャリアガイダンス(688)				教科区分	一般教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	森田 紗季				実務経験内容	
					[森田]音響・照明業界の経験を活かし、業界に必要な礼儀やマナーなど必要不可欠な内容の知識を中心に講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教室	355 教室	補助教員	なし	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教科書教材	仕事力を身に付ける20のステップ					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>1～3回 就活とコミュニケーションのつながりを理解する</p> <p>4～6回 意見をつくる力</p> <p>7～9回 聞く力・話す力</p> <p>10～12回 自己理解</p> <p>13～16回 仕事理解</p> <p>【後期】</p> <p>1～3回 自己PR作成</p> <p>4～6回 トークセッション</p> <p>7～9回 就活成功3ヶ条</p> <p>10～12回 選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験）</p> <p>13～15回 面接（個人・グループディスカッション）</p> <p>16回 まとめ</p> <p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード	11	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。 	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	演出論(910)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	川崎 慎也				実務経験内容	
					[川崎]長年シナリオライターとして携わってきた経験を活かし、様々なメディアの演出法を教える。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
基本的には映像における演出を学ぶが、それは入り口にすぎず、様々なメディア・事象からの演出技法を学ぶ。演出とは極めて抽象的なものであり、具体的な方法の提示が難しい。その特性も深め、小さな演出の積み重ねにより、作品を作り上げていく方法を教えていきたい。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。場合に応じて PC をスクリーンに映し、演出例を提示していく。 また、グループワークなど能動的に授業に参加できる仕組みを展開していく。						
教科書 教材	なし					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～2回 演出導入 2～4回 5W2H とは 5～6回 報連相について 7～8回 現場におけるコミュニケーションについて 9～10回 映画における演出方法 11～12回 作品の権利について 13～14回 シチュエーションごとの演出 15～16回 前期まとめ</p> <p>【後期】 1～2回 前期の復習と後期の説明 3～4回 CM の演出方法 5～6回 PV, MV, VP などの違い 7～8回 報道番組の演出方法 9～10回 ドキュメンタリー番組の演出方法 11～12回 バラエティ番組の演出方法 13～14回 ドラマの演出方法 15～16回 後期まとめ</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
評価コード	3					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ol style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。
------	---

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	映像論(567)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	富田 正樹				実務経験内容	
					[富田]映像業界で制作技術を経験してきた。培った映像関連の知識・技術を活かし講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像における制作・技術の基礎的な知識を学ぶ。 映像という身近な物を「商業」として成立させるために必要な知識と技術を例題を用いながら解説していく。 今まで興味のなかったコンテンツにも興味を向けれるようになり、 かつ既存コンテンツの制作技術の方法を理解させていく。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。						
教科書 教材	必要に応じてプリント配布					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～2回 映像/基礎知識① 3～4回 映像/基礎知識② 5～6回 映像制作の仕事とスタッフの役割 7～8回 カメラ技術1（カメラ機能） 9～10回 カメラ技術2（撮影方法） 11～12回 カメラ技術3（特殊撮影） 13～14回 カメラワークの基礎 15～16回 前期まとめ</p> <p>【後期】 1～2回 映像/基礎知識③ 3～4回 録音・音声 5～6回 映像・照明 7～8回 ENGの仕組み 9～10回 放送技術（無線伝送等） 11～12回 映像とは（コンテンツの将来） 13～14回 最新映像技術について 15～16回 まとめ</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード	3	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ol style="list-style-type: none"> 出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。 	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	音響論(911)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	曾我部 進				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
イベントや映像制作における音響演出の魅力を紹介しながら、音響機器の種類や機能に関する基礎知識を講義します。さらに、音の收音方法や音響・音声業務の運用技術についても学びます。即戦力となるために、音響用語や機材の用途・種類（名称や型番）、内部構造、付属機器の知識まで幅広く習得します。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
機材や図面や配置図などをスクリーンに映しながら、解説していく。必要な時には、学生にプリントを配布し、課題を行って最後に解説を行う。						
教科書 教材	サウンドバイブル<The Theatrical Sound Engineer's Bible><第1版> 兼六館出版 八板賢二郎 著（毎授業で使用） プロ音響データブック<五訂版>リットーミュージック 日本音楽家協会 著（毎授業で使用）					

授業計画・内容

【前期】

- 1～2回 科目のガイダンス（音の3要素【音の大きさ、音の高さ、音色】、音響の仕事）
 3～4回 音響の仕事
 5～6回 音の性質（両耳効果、音速、ドップラー効果、気温による音の変化など）
 7～8回 マイクロフォン（構造的分類、指向別分類、用途別分類、代表的なもの）
 9～10回 再生装置
 11～12回 スピーカ（仕組み、キャビネット）、帯域ごとに鳴らす（パッシブ、アクティブ）、仕様
 13～14回 パワーアンプ（仕様【特に消費電力】）
 15～16回 ケーブル、コネクタ、その他小物（マイクスタンドなど）

【後期】

- 1～2回 マイクロフォン、D I などによる收音方法
 3～4回 ミキサーの取り扱い
 5～6回 メインスピーカーの再生方法（ワンボックス、マルチアンプ）
 7～8回 モニターの原理とハウリングとその対策
 9～10回 エフェクターの種類と原理と接続方法
 11～12回 ワイヤレスマイクの仕組み
 13～16回 音響業務に伴うデジタル技術

<授業外学修時間>

授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。
 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。
 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。
 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ol style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。
------	---

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	照明論(912)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 早穂				実務経験内容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
世の中に合わせた照明効果の需要は拡大し、大掛かりで、効率の良い照明技術が要求されるようになってきた。ここでは、照明の知識や技術を習得し、仕込み図などを作成し、照明スタッフとして最低限必要な基礎を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
世の中に合わせた照明効果の需要は拡大し、大掛かりで、効率の良い照明技術が要求されるようになってきた。ここでは、照明の知識や技術を習得し、仕込み図などを作成し、照明スタッフとして最低限必要な基礎を学ぶ。						
教科書教材	舞台・テレビジョン照明<基礎編> 日本照明家協会（毎授業で使用） 舞台音響技術概論 兼六館出版 半田健一 著（毎授業で使用）					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～2回 光の性質、色温度 3～4回 カラーフィルター、レンズスポットの構造 5～8回 灯体の種類と用途 9～12回 設備照明の種類と用途 13～14回 ハンガー、スタンドなどの付属品 15～16回 照明用語</p> <p>【後期】 1～2回 前期の復習 3～4回 仕込み図 5～8回 スタジオ照明 9～12回 DMX 13～14回 電源ケーブルの種類 15～16回 照明の仕込み</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に進めさせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>
--

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ol style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	舞台論(913)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 早穂				実務経験内容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
舞台の形式は、演出上、客の目を楽しませる目的で大掛かりなものとなり、舞台の需要がますます多くなってきた。ここでは、即戦力となるために知識や技術を習得し、配置図を作成し、舞台業界で役立つ基礎的な内容を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
毎授業の最初に、前回の復習を行い理解を深める。板書を中心に行い、説明しながらノートに書かせる。舞台機構などの写真をスクリーンで見せながら講義していくこともある。前後期末にノートを集めて、確認する。						
教科書 教材	舞台・テレビジョン照明<基礎編> 日本照明家協会（毎授業で使用） 舞台音響技術概論 兼六館出版 半田健一 著（毎授業で使用）					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>1～2回 舞台方位 3～4回 幕の種類、用途 5～8回 舞台機構の種類と仕組み 9～10回 尺貫法、平台の組み方 11～12回 大道具と小道具 13～16回 舞台用語</p> <p>【後期】</p> <p>1～2回 前期の復習 3～4回 イントレ、トラス 5～6回 道具の構成 7～8回 俯瞰図 9～12回 舞台装置の種類と用途、劇場の種類 13～14回 安全管理 15～16回 舞台法規</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>
--

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	電気論(914)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	曾我部 進				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像・音響・照明機材を操作するために必要な電気に必要な知識、計算方法を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
映像音響業界で扱う電源の知識や安全について、講義にて解説を行う。資料は教科書のほか、スクリーンに投影したものを利用し解説を行う。理解度の確認と知識の定着を目的に、授業内容に合わせた問題を出題・解説する。						
教科書 教材	電源の基礎知識・配布資料					

授業計画・内容

<p>【前期】</p> <p>1～2回 ガイダンス (電気と映像音響分野の関係)</p> <p>3～4回 単位の接頭語、カラーコード</p> <p>5～6回 直流と交流</p> <p>7～8回 直流による電圧・電流・抵抗</p> <p>9～10回 直流回路の計算</p> <p>11～12回 電流による様々な作用</p> <p>13～14回 電池</p> <p>15～16回 磁気と静電気</p> <p>【後期】</p> <p>1～2回 前期の復習</p> <p>3～4回 交流の基礎</p> <p>5～6回 交流回路の計算の基礎</p> <p>7～8回 交流の基本回路</p> <p>9～10回 RLCの組合せ回路</p> <p>11～12回 交流回路の電力・三相交流</p> <p>13～14回 整流について</p> <p>15～16回 電気事故の防止</p> <p><授業外学修時間></p> <p>授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。</p> <p>また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。</p> <p>必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。</p> <p>担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード	3	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 (100 点満点) の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点 (出席および受講の状況) を 20 点の配点とする。成績の評定は、S (90～100 点)、A (80～89 点)、B (70～79 点)、C (60～69 点)、F (60 点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・ 追試験 (100 点満点) の点数は、次の (1) または (2) とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病 (医師の診断書のある者) および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者 (証明書のある者) ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 (2) 上述 (1) 以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均 (1 点未満については切り上げ) を成績の評定とする。 	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	編集論(915)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	梅村 泰成				実務経験内容	
					[梅村]放送業界で制作を経験してきた。培った編集の知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	3	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像編集にはさまざまな手法があるが、それを技術的な面から学んでいく。多くは教科書からポストプロダクションが何たるか、映像制作においてどのようにかかってくるかを学び、さらに編集に必要な基礎知識を学んでいく。単純に編集できるようになるのではなく、どのような技術が重なって編集技術が確立されているかを理解する。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
教科書を中心に、実際に編集技能を学んでいく。必要に応じて、動画を見せ、実際の編集技法をイメージしやすくする。						
教科書教材	ポストプロダクション技術マニュアル【第9版】 日本ポストプロダクション協会（毎授業で使用）					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～2回 ポストプロダクションの役割 3～4回 映像ができるまでの流れ 5～6回 テレビ放送の歴史 7～8回 映像信号について 9～10回 タイムコード 11～12回 VTRの仕組み 13～14回 映像特性 15～16回 映画鑑賞</p> <p>【後期】 1～2回 前期のまとめ 3～4回 編集の方式 5～6回 オフライン・オンライン編集について 7～8回 リニア・ノンリニア編集について 9～10回 さまざまなカット割りについて 11～12回 イマジナリーラインについて 13～14回 音の編集について 15～16回 まとめ</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>	
--	--

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ol style="list-style-type: none"> 出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	コンピュータ演習 1 (A84)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 麻里				実務経験内容	
					[酒井]企業等で経験して培ったコンピュータの知識・技術を活かし講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	6	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
Word、Excel、PowerPoint および Illustrator、Photoshop の基本操作の実習をし、今後の映像音響分野で使われる、仕込み図、企画書、プレゼン資料などが作成できるようなスキルを備えさせる。						
授業形態	演習	教室	355 教室	補助教員	なし	
前回の復習を行い、次の授業に繋げていく。例題を出し、操作方法の理解を深めていく。また、課題を与え提出させる。						
教科書 教材	なし					

授業計画・内容

<p>【前期】 1～4回 コンピュータの環境設定、基本操作の確認 5～8回 Word の基本操作 9～12回 文字の入力と編集 13～16回 文章の作成と編集 17～20回 表作成 21～24回 Excel の基本操作 25～27回 数値の入力と編集 28～30回 セルの編集・表計算 31～32回 前期まとめ</p> <p>【後期】 1～4回 PowerPoint の基本操作 5～8回 文字の入力と編集 9～12回 図形、写真の挿入と編集 13～16回 アニメーションの作成 17～20回 プレゼンテーションの実施 21～24回 Photoshop の基本操作 25～27回 写真の編集 28～30回 写真の加工・効果 31～32回 後期まとめ</p> <p><授業外学修時間> 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。</p>						
評価コード	13					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1年

科目名	テクニカル実習(A07)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	曾我部進・石黒誠・石川麻子・酒井早穂				実務経験内容	
					[石川] イベント業界におけるシステムの構築・運用を担当。その際の知識・経験を活かして、実技面を指導する。 [酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし実技面を指導する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	8	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
ケーブル・コネクタの種類・構造や、機材（付属機材）の種類・使用方法を学び、基礎的なシステム設営と撤去の方法を身につける。さらに作業を行う上で必要不可欠なケーブルの巻き方、舞台道具や備品の種類・安全性を考慮した設営方法を学ぶ。基礎知識を習得していくことで成長意欲を高め、自己研鑽を重ねるよう意識させる。						
授業形態	実習	教室	NKC イベントホール・アートスタジオ・625 教室	補助教員	なし	
現場で適宜対応できる人員を目指し、段階に合わせた実技訓練を行う。基準レベルを設定の上、現場想定によるシステム構築や時間短縮をしながら、基礎レベルを向上させる。						
教科書教材	プロ音響データブック<五訂版>、舞台テレビジョン照明<基礎編>、工具、テスター（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

【前期】	
1～5回	実習ガイダンス
6～10回	小規模システムのデモンストレーション
11～20回	機材の確認①及びケーブル巻き
21～30回	機材の確認②及びケーブル敷設方法
31～40回	機材の取り扱い
41～50回	舞台道具の使用方法及び簡易システム①
51～60回	人物ライティング①及び特殊ケーブルの取り扱い
61～70回	人物ライティング②及び簡易システム②
71～80回	ケーブル製作①及び舞台備品の使用方法
【後期】	
1～5回	小規模システム①
6～20回	小規模システム②及びテント設営
21～40回	ケーブル製作②及び人物ライティング包括
41～49回	ケーブル製作③及びシステム構成
50～59回	中規模システム①
60～64回	照明吊り込み①及び卓（アナログ）の取り扱い
65～69回	中規模システム②
70～75回	照明吊り込み②及びシステム構築
76～80回	照明吊り込み③及び中規模システム③
<授業外学修時間>	
授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実にこなせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。	

評価コード

13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---